

「旬」の植物紹介(3月編)

ユキワリイチゲ *Anemone keiskeana* (キンポウゲ科 イチリン

ソウ属)

ずっと以前から「キクザキイチゲ *Anemone pseudo-altaica*」だと思っていた。車から降りてじっくり見てみると、どうも葉の形が違う。キクザキイチゲの葉は、深く切れ込みがあるのだが、その切れ込みがない。しかも、葉裏が紫色だ。葉の特徴は野菜?の「三つ葉」を思っていただけでは間違いない。



←ユキワリイチゲの花
(2022.3.21 岡山市北区)
-曇りの日に撮影-

漢字で書くと「雪割一花」もしくは「雪割一華」となる。「イチゲ」とは、一輪の花を咲かせるということから来ているようだ。

参考になっている図鑑には、「雪割」とは少々オーバーだとの記載があるが、3つの三角形葉の真ん中から花茎が伸びている様は、「雪を割って出てくる」花を連想させて、イメージ的にも納得がいくような気がしている。

生育環境は山腹斜面の下部で、礫が絶えず供給されて土壌がたまりすぎないところが適地だという。今回訪れた場所もまさにそういった場所だった。

しかし、道路沿いの立ち木にはピンクテープが巻かれており、改良工事が間近いようだ。せっかくの群落も来年は見られなくなるかも知れない。

曇りや雨天時には花を大きく開くことは無いようで、鑑賞するには晴れた日を選ぶことをお勧めする。



←ユキワリイチゲの葉裏
(植物雑学辞典から転載)

キクザキイチゲの葉表
→
植物雑学辞典から転載



引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」
野草の名前「春」山と溪谷社刊